

1 調査結果の概要

(1) 小学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等を合計した肯定的な回答の割合の差が20ポイント以上あった項目）

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）

※太字は昨年度と同様の項目

【プラス項目】

「調査対象学年の児童に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか（実施した日数の累計）。」

（【延べ13日以上】+7.4、【延べ9～12日】+13.6、【延べ5～8日】+51.4）

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。」

（①-5.8、②+28.7）

【マイナス項目】

「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができていると思いますか。」

（①+6.8、②-26.8）

「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

（①+9.2、②-32.9）

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」

（①-11.1、②-14.4）

「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語や算数において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組みせることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行いましたか。」

（①-22.0、②-14.8）

「前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。」

（①-23.0、②-3.1）

「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。」

（①-18.6、②-1.6）

「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。」

（①-28.4、②+8.4）

「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。」

（①-28.2、②+5.0）

(2) 中学校：学校質問紙

全国値と比べ顕著な差があった項目

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」、「よく行った」「どちらかといえば、行った」等を合計した肯定的な回答の割合の差が15ポイント以上あった項目）

※①は「その通りだと思う」「よく行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）、②は「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の全国値との差（ポイント）

※太字は昨年度と同様の項目

【プラス項目】

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか。」

（【基本的に毎週行った】－0.9、【月に数回程度行った】＋21.4）

「教育課程表（全体計画や年間指導計画表）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。」（①＋5.8、②＋18.0）

「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて利用しながら効果的に組み合わせていますか。」（①＋8.7、②＋20.0）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語や数学において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、生徒自身が把握できるような評価を行いましたか。」（①＋36.6、②－10.0）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか。（①＋19.1、②＋10.7）

「調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。」

（【年間授業のおおよそ3/4以上】－19.8、【年間授業のおおよそ1/2～3/4】＋43.4）

「前年度までに、近隣等の小学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか。」（①＋22.9、②＋15.6）

「前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか。」（①＋40.9、②－13.4）

「前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。」（①＋5.8、②39.3）

「平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか。」（①＋31.8、②＋14.3）

「都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来航していますか。」（①＋72.9、②－35.1）

「教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか。」（①＋48.4、②－26.2）

「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。」（①＋32.4、②＋4.0）

「コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っていますか。」（①+41.9、②+17.3）

【マイナス項目】

「調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。」（①-5.5、②-29.2）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。（実施した日数の累計）」（【延べ13日以上】-9.6、【延べ9～12日】-12.6）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」（①-15.8、②-31.8）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか。」（①-21.2、②-13.6）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。」（①-24.4、②-16.9）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用して、子供同士が教え合うなどの学習（協調学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか。」（①-11.4、②-20.3）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか。」（①-10.6、②-19.2）

「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。」（①-2.7、②-17.7）

2 学校質問紙の調査結果をふまえて

○小学校は、全国値を顕著に下回るマイナス項目が多い。

（プラス項目：2、マイナス項目：8）

児童質問紙で「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」の項目で肯定的な回答をしている割合が高く、話す・書く等の表現に対して自信がないことがうかがえる。このことは、学校側も感じていて、「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができていると思いますか。」及び「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の肯定率が低く、児童と同様の受け止め方をしている。

しかし、指導においては「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」の肯定率が低く、解決策が十分図られていない状況にあることがわかる。まずは、授業中に児童一人一人の表現する場をしっかりと保障し、さらに「問い返し」等の工夫をして表現の質を高めていく活動を行っていくことが求められる。

○中学校は、全国値を顕著に上回るプラス項目が多い。

(プラス項目：14、マイナス項目：8)

中学校はプラス項目が多く、他地域より取組が進んでいることがうかがえる。

特に、小学校と連携した各種取組を行っていることや数学科において習熟度別指導を行い、一人一人に応じた指導を行っていることがうかがえる。

コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っているが、国語科だけが実践に結びつけているが、その他の教科ではまだ実践に結びついていない状況である。

小学校と同様に、生徒質問紙で「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」の項目で肯定的な回答をしている割合が高く、話す・書く等の表現に対して自信がないことがうかがえる。このことは、学校側も感じていて、「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。」の肯定率が低く、生徒と同様の受け止め方を行っている。

しかし、指導においては「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」及び「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。」の肯定率が低く、解決策が十分図られていない状況にあることがわかる。まずは、授業中に児童一人一人の表現する場をしっかりと保障し、さらに「問い返し」等の工夫をして表現の質を高めていく活動を行っていくことが求められる。